

第1回 周南市スマートシティ推進協議会 議事要旨

■日 時：令和3年11月17日（水）10:00～11:30

■場 所：周南市役所 本庁舎 4階庁議室

■出席者：以下の通り

所属・団体名	役職	氏名	区分	出欠
東京大学大学院 工学系研究科	教授	羽藤 英二	学識経験者	出席
徳山大学 福祉情報学部	准教授	児玉 満		出席
徳山工業高等専門学校 情報電子工学科	准教授	柳澤 秀明		出席
徳山商工会議所		船井 辰郎	関係団体 を代表する者	出席
周南市社会福祉協議会	地域福祉係長	金池 聡志		欠席
周南市体育協会	事務局主任	砂田 優一郎		欠席
周南市コミュニティ推進連絡協議会	副会長	加藤 洋	コミュニティ組織 を代表する者	出席
周南市コミュニティ推進連絡協議会	監事	黒神 充久		出席
山口県未来技術活用統括監		田中 貴光	オブザーバー	出席
周南市 ICT 推進アドバイザー		藤原 孝幸		出席

■要 旨

1. 開会

（事務局）

- ・ ご多忙の中、御参集いただき感謝する。本日はオンライン参加の委員もいらっしゃるため、発言時にはマイクの使用をお願いする。
- ・ 会議の開催にあたり、本市のCIOである副市長の佐田よりご挨拶申し上げる。

2. 挨拶

（周南市 佐田副市長）

- ・ この度はお忙しい中、周南市スマートシティ協議会にご出席いただき感謝する。
- ・ 本市では、まちづくり総合計画後期基本計画の中で society5.0 の実現を見据え、IoT や AI 等の先端技術やビッグデータ等を積極的に活用しながら、重点推進プロジェクト等を効率的かつ効果的に推進していくこととしている。

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、我が国では現在、テレワークやオンライン環境の普及、デジタル庁の設置等、デジタル化が急速に進展し、本市でも今年3月に周南市スマートシティ構想を策定した。現在、その最重点施策として、全庁をあげてスマートシティの構築、推進に取り組んでいる。
- ・ 協議会については、モデル地区を始めとした、本市におけるスマートシティの推進施策について委員の皆様からご意見をいただきながら、官民一体となって、スマートシティの実現に踏み出すことを目的とした、重要な役割を担っている。
- ・ 皆様方には専門知識、あるいは多様な経験などをもとに、地域課題の解決に向けたICT技術の活用について、忌憚のないご意見をいただきたい。本市のスマートシティの実現に向けて、お力添えをよろしくお願いしたい。

(事務局)

- ・ 今後の協議会の運営については、資料1 周南市スマートシティ協議会設置要綱に基づいて行っていく。

<委員の紹介と委員の挨拶>

(東京大学大学院 羽藤教授)

- ・ 周南市とは徳山駅のプロジェクで長年ご一緒している。地域の住民の方々の暮らし方を踏まえてのスマートシティの推進に向け、他地域でのスマートシティプロジェクトの知見を活かしてうまく結実できるよう、協力したい。

(徳山大学 児玉准教授)

- ・ 徳山大学は来年度から公立化となり、スマートシティに関わりの深い、人工知能やデータサイエンスを主にした学部の設置を予定している。このスマートシティの会議でお役に立てればと思う。

(徳山工業高等専門学校 柳澤准教授)

- ・ 情報工学を専攻してきたが、まちづくりに関わる経験はあまりない。楽しみにしている。

(徳山商工会議所 船井氏)

- ・ 徳山商工会議所は市内を中心とした1900ほどの事業所の会員組織である。中小企業、小規模事業者に対する支援のほか、夏祭り・ツリー祭り等のイベント業務を通じ、地域に根ざした活動を行っている。周南における経済団体の視点、また、周南市民の視点として、お役に立てればと思う。

(周南市コミュニティ推進連絡協議会 加藤副会長)

- ・ 周陽地区のコミュニティ推進協議会の会長を兼ねており、15 年間地域の自治に携わってきた。地域では色々な問題や課題を抱えているが、先端技術を応用して、住みやすい地域づくりに貢献できればと思う。

(周南市コミュニティ推進連絡協議会 黒神監事)

- ・ 遠石地区のコミュニティ推進協議会の会長を春から受けている。この会議では地域住民の要望を伝えていければと思う。

(事務局)

- ・ 周南市社会福祉協議会の金池委員と周南市体育協会の砂田委員は本日欠席です。

3. 会長及び副会長の選任について

(事務局)

- ・ 次に、会長と副会長の選出を行う。周南市スマートシティ推進協議会設置要綱第 5 条の規定により、当協議会の会長及び副会長は、委員の互選によって定めることとしている。会長についてご意見のある方はいらっしゃるか。

(委員)

- ・ 本日は皆初対面ということもあり、互選となると難しいこともある。事務局に考えをお伺いしたい。

(事務局)

- ・ 事務局としては、スマートシティの推進について専門的な知識をお持ちである羽藤委員に、会長にご就任いただくのが適切と考える。他に意見等のある方はいらっしゃいますか。

(委員一同)

- ・ 異議なし

(事務局)

- ・ ご意見がないため、当協議会の会長に羽藤委員を選出させていただく。
- ・ 設置要綱第 6 条第 1 項の規定により、議長は会長が務めることとなっている。今後の議事進行を羽藤会長にお願いする。

(会長)

- ・ 会長に選出いただき、感謝する。皆様のご挨拶を伺い、特に徳山大学に新学部ができることがスマートシティの取組の中でも、両者を関連づける重要なポイントだと考える。
- ・ 周南緑地付近は非常に街中から近い、水準の高い住宅地と思っているが、コミュニティ推進連絡協議会の方々がおっしゃっていたとおり、我々だけでは解決できないような課題や問題があると思う。それらをこのスマートシティの取組の中で解決できればと思っている。
- ・ 続いて副会長の選任を行うが、こちらについても事務局から案があればご提示願いたい。

(事務局)

- ・ 事務局案としては、徳山大学の児玉委員が適任かと考えている。

(会長)

- ・ ありがとうございます。皆様いかがか。

(委員一同)

- ・ 異議なし

(会長)

- ・ 教育との関係も非常に大事だと考えるので何とぞよろしくお願いしたい。
- ・ 会長及び副会長の選任が終了したので、具体的な議題に移る。

4. 議題

(1) オブザーバーの設置について

(事務局)

- ・ 設置要綱第3条第3項の規定により、必要に応じてオブザーバーを設置することができる、とある。本協議会にて、スマートシティの推進に向けた諸課題等を検討するため、山口県未来技術活用統括監の田中貴光様と周南市 ICT 推進アドバイザーの藤原孝幸様にオブザーバーとしてご就任いただきたい。

(会長)

- ・ お二方とも専門的な知見を持たれている方であり、本協議会においてもプラスになると考える。
- ・ それではオブザーバーの設置を認めるということでよろしくをお願いしたい。お二方から何か一言ずつをお願いしたい。

(山口県未来技術活用統括監 田中氏)

- ・ 県庁において、デジタル推進局に所属しており、県全体の DX 化業務に取り組んでいる。ニュース等でご存知かと思うが、県では 11 月 1 日に DX を推進するための拠点として、Y-BASE という拠点を設置した。箱モノではなく県内全域の自治体、民間事業者様が DX を進めていくための方法についてご相談を受けたり、DX や ICT の技術に触れていただきながら、課題を解決できたりするような拠点を運営している。
- ・ 県としても DX の推進に取り組んでいるところであり、まさしく周南市の方で検討されているスマートシティについては、各市民の課題に対してどうデジタル技術で解決していくか、ということが求められていると思う。それに対して色々な側面からアイデア等を協議会の中で提示したい。

(周南市 ICT 推進アドバイザー 藤原氏)

- ・ 本年 4 月より、ICT 推進アドバイザーとして、皆様からご意見やご相談を承っている。中身としては、自治体の DX ということで、庁内の業務の DX や、地域社会の DX ということで、色々なデジタル技術を活用して新たな取組を行うことが取りざたされており、その辺りについて、ともに検討を行っている。
- ・ 最近は技術の裾野が広がっており、全ての領域に対して全ての専門性を持つことが難しく、色々な立場の方々が共に悩みを共有して、共に解決を行うというアプローチが重要となっている。可能な限り貢献できるよう、頑張っ

(会長)

- ・ DX の話は地元からすると、遠い話に聞こえるかと思うが、ぜひこの場で地域のニーズから周南市らしいスマートシティを目指していきたいと思う。オブザーバーのお二方には何とぞご協力をお願いしたい。

(2) 周南市におけるスマートシティの取組について

<資料説明>

(会長)

- ・ 周南市ではモデル地区を定めて、地域主導で進めていくところに、新しい技術を組み合わせることで実質的な効果を出すことを狙っていく。
- ・ その先には様々な DX の基盤を周南市の中に取り込んでいくことに繋がっていくが、まずは地元の社会福祉協議会や体育協会、商工会議所、教育の現場の方々が委員として入られているので、そうした観点を取り込みながら周南市の特徴を出していければと考えている。

(3) モデル地区について

<資料説明>

(会長)

- ・ 周南市の問題や課題に対する取組をその地域で行うことで、横展開が可能となる地区が選ばれている。コミュニティや福祉の問題等、様々な問題についてモデル地区で議論していければと思う。

(4) モデル地区における地域課題について

<資料説明>

(羽藤会長)

- ・ モデル地区でワークショップをやった結果が資料にはあるが、全てを実施する訳ではない。また、技術を適応する際に webGIS 等の道具立てが書かれているが、この辺りについては徳山大学や徳山高専と連携しながらでなければ、なかなか住民の方にはハードルが高い。地域からどのような課題を解決したいというボトムアップの声がない限りは難しいと思う。
- ・ 順番に一人ずつご意見を頂戴したい。

(委員)

- ・ 具体的に市民の方のニーズを把握しきれていない中で、具体的な解決方法はまだ無い。まずは情報を収集し、どのような情報が必要なのかを考える必要があるのではないかな。
- ・ 既存の技術をどこまで使うのかについて、確認させていただきたい。新しいシステム等を作るではなく、あるものを前提に活用するという認識でよろしいかな。

(会長)

- ・ 事務局より、新しいものを使うか、あるいは周南市の中にある色々なセンシングデータを活用していくのか等、考えを伺いたい。

(事務局)

- ・ 本市ではスマートシティの推進を掲げているので、方法としては先端技術等と記載している。一方で、なかなかハードルの高い技術をいきなり導入することは難しいと思っている。ある程度、普及しているもの、普及し始めたものを上手く活用しながら、地域性や本市が所有するデータと合わせて進められたらと考えている。

(会長)

- ・ 既にあるセンシングの技術や市民の方とつなぐアプリが既に周南市では導入されているものもある。そのようなものを使いつつということは重要な点だと思っている。

(委員)

- ・ 今回の資料を見て、今回のワークショップについては、市民の意見ということになると思うが、恐らく昔からある課題や願望をまとめているのかと思う。根底にあるのは、住んでいる自身の街が、安心安全で過ごせたら良い、というところにあると感じた。
- ・ その中で野犬を始めとする課題が解決されて初めて、他の部分の課題（地域の方との繋がりが欲しい等）の解決に派生すると考えると、この中の課題の中で、優先順位をつけてそれに対して一つ一つクリアし、最終的に全体の部分が解決され、住みたい街になれば良いと思った。
- ・ 商工会議所の視点（経済団体の視点）としては、スマートシティを形成するには、地元の企業を育てていくのはもちろんだが、外部からも進出がしやすいような仕組みづくりが必要だと感じた。

(会長)

- ・ 例えば、優先順位については、自身も松山市や江東区でスマートシティに関する取組を行っているが、地元が何をやりたいか、どのような問題があるかということから抜いて、技術主導ではなく、コミュニティの方々と一緒に作っていく、という視点で考えていくことが重要である。
- ・ 地元の商業をされている方との連携の中で、どのようなことができるか、という視点も優先順位の中では重要だと思っている。企業の参画に関しては、松山では、アーバンデザインセンタースmartシティスクールという市民がスクール形式で地域のプランを考え、そこに企業側が入り、具体的な技術の提案を行い、マッチングを行っていく、という取組を行っている。周南緑地のプロジェクトにおいても、徳山大学や徳山高専の皆様と共に取り組んでいくということが十分に考えられるのではないかな。
- ・ 優先順位と企業との関係性作りについて、事務局にて考えはあるか。

(事務局)

- ・ 住民の方の、このような街にしたい、こうなったらいいな、という気持ちが一番大事だと思っている。それを踏まえ、今年は住民の方とのワークショップを行い、キャッチボールを行っているところである。

- ・ 優先順位に関しては、委員の方が仰っていたとおり、安心安全をベースにした
い。一方で、取り組みやすいものとハードルが高いものがある。ハードルが高い
ものをずっとやろうとして、取組が進まない事態になると、まちづくりが進まな
い問題が出て、住民の方ももどかしさを感じるのではないか。そのようなことから、
取り組みやすさの観点も入れつつ、住民の方が希望することを考えながら優先
順位をつけていく。
- ・ 企業については、周南市でスマートシティの取組があるということが、面白いこ
とをしているなと捉えていただけると、周南市において自社でも何か取り組みた
い、という思いを持ってもらえることに繋がるのではないか。商工会議所等と連
携しながら進めたい。

(会長)

- ・ 的確なコメントである。動かせるものを作り、企業の方を巻き込んでいくところ
が周南市のスタイルということด้วย。

(委員)

- ・ 今回は、周陽地区と遠石地区をモデルとして選んでいただいたということである
が、周陽地区は、既に住んでいる方々のレベルが色々な面で高い地区である。か
つ、医療施設や教育施設、総合施設が集中している。しかし、住んでいる人が高
齢化し、限界集落に近づいている。そのような状況下で、お年寄りがスマートシ
ティの取組について、何を感じるのか、つまり生活が非常にしやすく、安心安全
によりなった、など実感できるようなところから詰めていくのが良いと思う。
- ・ ヨーロッパのスマートシティについて調べたことがあるが、オランダのユトレヒ
トという市でスマートシティの取組があった。通学路の安心安全を高めるため
に、車が近づくと街路灯が点灯する横断歩道などの事例があった。身近な課題か
ら解決することが大前提かと思う。
- ・ 例えば、iPhone のアプリを活用して、という取組も出てくるかと思うが、お年
寄りはそのようなアプリの活用が苦手である。自分たちが本当にこの地区で生活
をして、これがスマートシティだと実感できるような、施策を行うのが良いと考
える。

(会長)

- ・ 周南緑地での野犬の問題等、身近な問題がある中で、何か新しい技術によって、
身近な問題を解決できると、市民の方々の心も動いていくと思う。今回のワー
クショップの中でも、いくつかそのような課題が抽出できていると思う。ここのと
ころをぜひ、企業の方々とのマッチングも含め、動かしていければと思う。

(委員)

- ・ まずは、先日遠石地区でワークショップを開催いただき、皆様からの意見をよく取りまとめていると感じた。ただし、遠石地区においても高齢化に伴って、独居老人といった家に引き籠もられているお年寄りも沢山いる。そのような方は、ワークショップには参加されていないということで、本来の要望や困っていることが吸収出来ていないのではないかな。
- ・ お年寄りが見られるインターフェイスが問題だと思う。周南市ではケーブルテレビがあるので、スマートフォンを見ないお年寄りでもテレビは見ると思うので、ケーブルテレビを使った情報発信を行えば良いのではないかな。お年寄りの方々が出かけようと感じるきっかけは、この地区でこのようなイベントをやっているという情報発信だと思う。色々システムでというよりは、システムで配信する情報をどのように伝えるか、ということが一番の難しいことと思っている。

(会長)

- ・ 重要なお指摘が含まれていたと思う。ワークショップの感触からすると、高齢化が重要ではないかという視点とそのような場に出てきていない人たちの問題をどうするかという視点。
- ・ タッチポイントをスマートシティの中では、どういう風に見定めていくかが重要。ケーブルテレビというご提案があったが、面白いことをやっている活動だな、自分のニーズに答えてくれそうだなと思ってもらうためには、ケーブルテレビ或いは学生の方に向けてはYouTubeなどの媒体を活用して、工夫をしながらスマートシティの地域ブランディングにも繋げる必要があると感じた。
- ・ 委員から地元からの声があったが、事務局の方から何かワークショップを聞いていた感触を含めて、出てきていない人たちの意見をどのように拾い上げていくべきか伺いたい。

(事務局)

- ・ 委員からスマートシティを実感できることから始めてみては、というご意見をいただいたが、いきなり飛躍した技術を導入するより、小さなことから皆様が便利になった、安心して暮らせるようになったという実感が大事であり、そうした実感をさらに派生して取組を進めていきたい。情報格差（デジタルディバイド）にも配慮した形で、地域の方々と進めていければと思う。
- ・ 委員からいただいた、ワークショップに参加されていない層については、まだまだいらっしやると思っている。独居老人といった高齢者の方や障がいをお持ちの方については、ワークショップの場で意見を拾えていない。そのような方々や多様性についても目を向けていかないと本当の意味での地域社会のデジタル化、society5.0には成り得ないと感じている。出来るだけ幅広く意見をいただきな

がら進めたい。また、そうした方を含めて地区住民や市民の方に、どのようにしたらモデル地区での取組や周南市での取組を浸透できるか、ということを色々な媒体を使い、工夫したいと思っている。

(会長)

- ・ 非常に重要な視点だと思う。ぜひ地元での取組を一丁目一番地としてやっていければと思う。
- ・ オブザーバーから一言ずつ、専門家の観点からいただきたい。

(オブザーバー)

- ・ 検討内容を拝見し、実際にペルソナを設定し、住民の意見を収集して、課題を抽出するという形で、地域の住民の課題をどう顕在化していくかという取組を進められているので、このような形でブラッシュアップしていければと思う。
- ・ 今後の取組の中での話になると思うが、システムのデータの連携という話も書いてあったが、実際にスマートシティを進めていく中で色々な施策が走ると思うが、その時にいかにその施策の成果が出たか、出なかったかについても検証をする必要がある。最近ではデータ・ドリブンでという話もあるが、施策を実施した際にどのような効果があったかについて、施策を行う前にデータの確認をし、どのような結果になったかということを定量的に評価することも大事だと思うので、そこにうまく踏み込んでいければと思う。
- ・ 施策なりデジタル化の取組という観点で、取組を進めるにあたり、しっかり決めてから進めるとなると時間もかかり難いと思う。先ほど各委員の皆様からの意見にもあったが、地域の課題に対してまずは取組をやってみる。やってみて方向を修正して進めていく、ということが重要だと思う。まずは課題に対してどう改善できるかということについて、スモールスタートでやっていくことが重要だと思う。

(会長)

- ・ KPI の設定とスモールスタートことであったが、何かしらの指標を設けて、スマートシティの進捗を見えるようにしていくのは、重要な視点だと思う。どのような指標を設定するか、或いは指標に囚われ過ぎても良くないと思うので、どのような項目で進捗管理を行うかについて、事務局側にはお願いしたい。

(オブザーバー)

- ・ 市民の方の意見を聞いて、優先順位をつけて進めていくアプローチは素晴らしいと思った。実際に進めていくと、一つの課題に対して取り組んでいく中で新しい課題が出てくることに直面すると思う。良い街づくりという話とスマートシティ

の言葉の意味を普段から考えるが、スマートシティという言葉は、データをしっかりとって活用したり、考えたりするのに使っていくということ、EBPMやデータ・ドリブン、ということがポイントになると思う。データをしっかりとって、取り組んで、そこから教訓を持ちながら次に活かすことが課題の連続性を生んでいくと考える。

- ・ データを活用すると、市民の方がこれはいいことだな、とか価値があるな、と実感するような需要が生まれることが重要だと考える。あまりスピード感だけ求めてやってしまうと、データを活用することに対する見えない不安や恐怖心が増幅されてしまう恐れがあるので、良いことを進めていくために、データを活用すると良い社会、良い地域になるんだ、ということと連動して、形作ると良い取組になると感じた。

(会長)

- ・ 色々な施策を周南市でもやられている中で、どの施策は効果があって、どの施策は効果がなかったのかについては、短期的な視点だけでも言えない。昔失敗だと思っていた施策でも時間が経ってみると成功だったということもある。難しいところもあるが、把握し続ける、データを取り続けることは必要だと考える。どのような項目を計測するか、考えていければと思う。
- ・ スマートシティをやっている松山市では、プローブパーソン調査を行なっている。人の生活行動調査をスマートフォンで行っている。例えば、道後温泉でアートのイベントをやった時に人の動きがどのように変わっているか、或いは、外湯を作るとそこに人は来ているか、そのあと人がどこに行って、どのような活動をしているか、効果があったのか、無かったのかを定量的に把握して事業効果のインパクトを可視化する、ということをやっている。そのデータを地元の温泉組合の方がご覧になられて、次の計画をどうするかについてみんなで議論をする場がアーバンデザインセンタースマートシティスクールでは設けられている。
- ・ そのまま適応するのではないが、徳山大学や徳山高専といった教育機関が地元にあるので、私（東京大学）を含め、地元の方々とワイワイガヤガヤ、地元の小学生や中学生も混じりながらやっていければ、家から出てこられない高齢者の方にも、届くような活動になってくると思う。そのようなことを周南市のスマートシティの取組で考えていければと思う。

(委員)

- ・ ワークショップの件については、徳山大学の学生が二人参加させていただいた。ちょうど遠石地区に住んでいる学生であったので参加していただいた。まとめに書かれている意見の中では学生が言ったと思える意見があるが、実現していくう

えで、大学が地域にあるので、連携をとって進めていくことが必要だと思っている。

- ・ 徳山大学でも地域との連携を一番にあげて動いている。こういうことが出来ないか、という意見が出た時には、徳山大学に投げかけていただければと思う。
- ・ 技術的なことに関しては、ICT 関連は徳山大学でも出来るが、徳山高専も可能であると思う。連携を取れば、スマートシティの実現がうまくいくと思う。

(会長)

- ・ ワークショップにご参加いただいたということで、大学生の皆さんと地域との接点が生まれていることが周南市のスマートシティにとっては、重要なポイントになると思う。ぜひ、実際の新学部を立ち上げる際に、周南市のプロジェクトそのものを学生と地元の方々が一緒に、政策課題を抽出し、その評価を確認していくというような、ダイナミックなプロセスをぜひ取り込んでいただけたらと思う。また、徳山大学だけで閉じるのではなく、徳山高専と我々と共に活動できれば良いと思う。
- ・ ここまでのところで事務局から何かコメントはあるか。

(事務局)

- ・ 我々も効果の検証については難しいが大切と捉えている。スマートシティを目指す中では、データが重要となってくると思う。市民の需要を受け入れる際にスピード感だけではない、という話があったが、まさに住民の方は新しいこと、スマートシティというカタカナを見た時に不安を感じる人も多いと思う。しかしながら、そうしたものを一緒に考えていくことで、不安を払拭しながら取組を行いたいと考えている。副会長から大学や高専との連携、会長の方からも東大といった、教育機関との連携という話もあったが、どれだけスマートシティの取組に地区住民や教育機関、その他の団体、企業さんを巻き込んでいけるかが、スマートシティの施策にとって、成否を分ける重要なことだと思っている。そのような体制になるよう、我々も努力して参りたい。

(会長)

- ・ 全体で非常に良い議論ができたと思う。対象となる地区内には UR 団地や交通センター、コミュニティセンター、緑道、緑地公園、健康公園、コミュニティスペースのある山口銀行等と、様々な施設がある。陸上競技場や緑地公園の施設の老朽化に対応した改修事業、子供向けの交通センターの建て替え、野犬の対策、様々な問題がある。これらを重ね合わせるためには、他の部署との連携も重要になってくると思う。周南市としては、連携する部局の議論としては、どのように考えられているか。

(事務局)

- ・ 庁内の連携についてお話しさせていただきたい。本市は今年の4月に周南市スマートシティ推進本部を立ち上げた。特別職と庁内の全部長級が本部員となった組織である。本部長は市長、副本部長にCIOである副市長が就任されている。その推進本部を庁内の連携に活用している。また、推進本部の中に、スマートシティ推進委員会とプロジェクトチームを設置している。推進委員会は推進本部の前に調整する機関である。プロジェクトチームはそれぞれテーマを設定して、庁内の様々な部署の職員が特定のテーマについて議論を行っているチームである。そのような推進本部を活用して、庁内の他課と連携しているところである。

(会長)

- ・ 様々な準備を周南市でも行っていたので安心した。特に高齢者の意見が多かったが、現実には健康や運動という、子供も重要になると思う。子供と考えると、徳山動物園の改修事業が関係する。外側に向けて色々な関係を作っていく必要があるので、ぜひ徳山大学や徳山高専、商工会議所の皆様にも関心を持っていただきたい。そして、モデル地区を中心としながら、中心市街地や街中の様々な文化施設、子供達の活動でも、スマートシティの効果を発現させていく。そのためにはどのようなデータをとって、どのようなマネジメントしていくのか、という視点をお持ちいただきながら次のワークショップでも引き続き、議論いただければと思う。
- ・ 委員の皆様から、全体を通して聞いて、このようなことをもっと考えたら良いのでは、という意見はあるか。

(委員一同)

- ・ 特になし

(会長)

- ・ 色々な世代の方が混じり合って考えていくスマートシティにしたい。高齢の方、子供達、若い方、市の方、街の方、企業の方を巻き込みながら議論をしていきたい。

(5) 今後のスケジュールについて

<資料説明>

(会長)

- ・ ワークショップがまた開催されるが、徳山高専の学生さんは参加されていないの

か。

(委員)

- ・ ワークショップの具体日時を伺ったのが、つい先日であった。参加できるかどうかについては、確認しないとわからない。

(会長)

- ・ 関心のある学生さんがいらっしゃったら、ぜひご参加いただきたい。
- ・ 準備いただいた議題は以上となる。ボトムアップで、地域から課題を聞きだしながら、動かしていければと思う。

(委員)

- ・ スケジュールのところでお願いがある。前回ワークショップに出ていただいた方に、意見を取りまとめて、このような形で進めています、ということが参加者にフィードバックできればと思う。次回ワークショップ前に、配布いただければと思うがいかがか。

(会長)

- ・ 的確な指摘である。ワークショップの状況について、参加者の方にフィードバックいただくことは重要である。事務局サイドで検討いただきたい。

(事務局)

- ・ 委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。以上をもちまして、第1回周南市スマートシティ推進協議会を閉会します。皆様お疲れ様でした。

以上